

派遣専門家オリエンテーション資料

ルワンダ

REPUBLIC OF RWANDA

任国情報

1989年

国際協力事業団
国際協力総合研修所



は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものである。

本情報の整備にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とそのご家族の多大なご協力を得て作成した。また、外務省、在外公館その他関係機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただいた。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたく、各国にご滞在の皆様より最新かつ具体的で正確な情報をお寄せ下さるようお願いする。

本情報が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

JICA LIBRARY

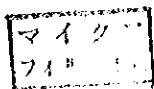


1074009[0]

平成元年3月

国際協力事業団

国際協力総合研修所長



目 次

	頁
I 一般事情	
1. 主要指標	1
2. 略 史	4
3. 政治, 外交	5
4. 経済事情	6
5. 我が国との関係	8
II 生活事情	
1. 食生活	12
2. 衣 料	15
3. 住 宅	17
4. 医 療	20
5. 教 育	23
6. 家庭の使用人	25
7. 交通事情	27
8. 通 信	29
9. マスコミ	31
10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ	32
11. その他のサービス	36
12. 観 光	37
13. 治安, 緊急時の心得	39
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	40
15. 私財の輸送, 引取り, 購入	44
16. 社 交	46
17. 任国公官庁	47
18. 在外日本関係機関等	50
19. 地方都市	51

I 一般事情

1. 主要指標

- | | | |
|-----|----|-----------------------------------|
| 1-1 | 国名 | ルワンダ共和国
(République Rwandaise) |
| 1-2 | 独立 | 1962年7月1日(旧宗主国:ベルギー) |
| 1-3 | 首都 | キガリ(Kigali)
人口11.8万人(1981年) |
| 1-4 | 面積 | 26,338平方キロメートル(四国の1.4倍) |
| 1-5 | 気候 | |

ルワンダは赤道の南に位置し、北はウガンダ、南はブルンディ、東はタンザニア、西はザイールに国境を接している内陸国である。また、同国は全土的に土地の高度が高く、カリシンビ山(4,507m)をはじめ、3,000メートル級の高山が群立し、「アフリカのスイス」と呼ばれている。そのため、赤道地帯に位置しながらも年平均気温は23度と温和な気候である。同国は大別すると小乾期(1月~2月)、大雨期(3月~5月)、大乾期(6月~9月)、小雨期(10月~12月)に分けることができる。

- | | | |
|-----|------|----------------------|
| 1-6 | 人口 | 623万6,000人(1986年、世銀) |
| 1-7 | 人種構成 | |

次の三部族よりなる。

● バンツー系フツ族

現在同国の人口の90%を占めるバンツー系フツ族は、農耕に従事している。同部族は他の地域から漸次、肥沃な土地を選んで、西暦年号初期に北部から同国に移住した部族である。

● ハム系ツチ族

同国人口の9%を占めるハム系ツチ族は、時期は明確にされていないが、ガラ族に属する長身の遊牧民が北東部から移ってきたもので、1300年頃には、アルベール湖からヴィクトリア湖にかけ、キタラ(Kitara)王国を樹立した。同部族はエチオピア人のタイプのごとく長身族である。

● ビグミー系ツワ族

本地域の原住民であると考えられているビグミー系ツワ族は

主要指標

古い伝説の中で、湖水が散在する高原に住んでいたことが語り伝えられている。

1-8	言語	フランス語(公用語), キニャルワンダ語								
1-9	宗教	<table border="0"> <tr> <td>原始宗教</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>カトリック教</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>回教</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9%</td> </tr> </table>	原始宗教	45%	カトリック教	45%	回教	1%	その他	9%
原始宗教	45%									
カトリック教	45%									
回教	1%									
その他	9%									
1-10	政治									
(1)	政体	大統領制の共和国(大統領の任期は5年。直接普通選挙によって選ばれ、再選も可能である。)								
(2)	元首	ジュヴェナル・ハビヤリマナ大統領 (Juvenal Habyarimana)								
(3)	議会	一院制(国家開発評議会, 70人)								
(4)	政党	「発展のための国民革命運動」 (MRND: Mouvement Révolutionnaire National pour le Développement) 国家発展を目指して国民を結集させるために、1975年7月5日設立された唯一の政党。								
1-11	経済									
(1)	国民総生産 一人当り	18億2,000万ドル 290ドル(1986年, 世銀)								
(2)	主要産業	農業(コーヒー, 茶, 除虫菊) 畜産(牛, 山羊) 鉱業(錫石, タングステン) 工業(コーヒー, 茶加工工業, 繊維関係工業)								
(3)	貿易	輸出額: 1億4,100万ドル 輸入額: 3億6,800万ドル (1985年, IMF)								
(4)	財政	歳入: 179億ルワンダフラン 歳出: 201億ルワンダフラン (1984年, 「アフリカ便覧」1986年度版より)								
(5)	通貨	通貨単位: Rwanda Franc(s) = 100 Centime(s) 略号: RF								

主要指標

為替相場：US\$1=75.11RF(1988年11月末)
(東京銀行月報1989年3月号)

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| (6) 外貨準備高 | 1億3,959万ドル (1987年, IMF) |
| (7) 対外債務 | 4億1,190万ドル (1986年, 世銀) |
| 1-12 日本との時差 | 日本との時差は-7時間で、日本の正午はルワンダの午前5時である。 |

略 史

2. 略 史

17世紀頃	王国建設
1899年	ドイツ保護領
1919年	ベルギー委任統治
1946年	ベルギー信託統治
1960年 10月	暫定政府成立
1961年 1月	王政廃止, 共和国宣言
9月	国連監視下で総選挙 カイバンダ大統領就任
1962年 7月	ベルギーより独立
11月	憲法制定
1973年 7月	ハビヤリマナ将軍, クーデターにより権力掌握, 大統領に就任。憲法停止。
1975年 7月	唯一の政党として, 発展のための国民革命運動 (MRND) 設立
1978年 12月	国民投票により憲法改正, 大統領再選 (民政移管)
1979年 1月	内閣改造
1982年 2月	内閣改造
1983年 12月	大統領3選
1984年 1月	内閣改造

3. 政治, 外交

3-1 最近の政情

1973年7月, 軍事クーデターにより政権の座についたハビヤリマナ現大統領は, 1978年12月に国民投票による憲法改正及び大統領選挙を行い, 民政移管を実施した。同大統領選において唯一の立候補者であったハビヤリマナ大統領は, 98.99%の信任を受けて再選された。また, 1983年12月, やはり唯一の立候補者であったとはいえ, 100%に近い信任を獲得, 3選された。

ハビヤリマナ大統領は1975年に創設された「発展のための国民革命運動」(MRND, 単一党)を根幹として, 伝統的なツチ族・フツ族の対立解消, 内陸国かつLLDCたる同国の経済発展(輸送路, 水道, 電気等の社会インフラ整備, 農業の近代化)に努力するとともに, 国民の生活水準引き上げのために全力を投入している。

1980年1月の市町村議会の選挙に続き, 5月には県委員会委員の選挙実施及び81年12月には憲法に規定されている立法府たる国民発展審議会(Conseil National de Developpement)議員の選挙を行った。また, 数度の内閣改造を行うことにより, 同国の民主化および体制整備を着実に進めている。1983年12月に国民発展審議会議員の選挙を行い, 議員の任期を5年に延長した。

1983年7月5日, 第2共和制10周年記念式典を開催した。

3-2 外 交

ルワンダは, 非同盟中立主義を外交の基本路線とし, 東西両陣営ともに友好関係を維持している。しかしながら, 近年の経済開発のためには, 資金及び技術の獲得が第一であるとの立場に基づき, ベルギーを中心とする西側諸国との協力に重きをおいている。

OAU諸国の中では穏健派に属し, その大勢と歩調をあわせている。

内陸国であるという地理的条件もあり, 近隣諸国との関係には人一倍意を用いている。特に, ウガンダ, タンザニア, ケニアに国外輸送を依存しており, (ウガンダ・ルートは国外輸送の90%), これらの諸国とは積極的に友好関係維持に努めている。

また, 近隣諸国との間の組織として, 大湖経済共同体(Communaute Economique des Pays Grands Lacs)をザイール・ブルンディとの間に, カギラ河流域整備開発機構(Organisation pour Lamenagement et le Developpement du Bassin de la Riviere Kagera)をウガンダ・ブルンディ・タンザニアとの間に各々構成し, 緊密な関係を保っている。

経済事情

4. 経済事情

4-1 概 観

LLDCであり、資源の乏しい国土に、アフリカ諸国中でも最高水準の密度(約230人/km²)の人口を抱える内陸国という制約がある。経済は、農・牧畜業が基盤であり、1986年GDP構成比で約40%が農漁業によって占められている。

4-2 産 業

主要農産物はコーヒー、茶等であり、特に、コーヒーは重要な換金作物で、1986年の輸出収入の86%を占めているが、国際市況の動向に大きく左右されている。このほかには、錫が従来から農産物に次ぐ輸出品(81年輸出収入に占めるシェアは13.3%)であったが、85年の鉱山会社の解散により、85年、86年と大きく輸出が落ち込み、86年には輸出収入のわずか1.4%を占めるに留まっている。

4-3 財 政

経常収支と財政収支は赤字基調であり、これを外国資金の導入により補填し、投資の約70%は外国援助資金によるという状態であり、対外債務の増加が続いている。このため、世銀・IMFの支援を得て構造調整計画に取り組んでいる。

4-4 貿易, 国際収支

(1) 貿易

貿易額 (1983年) (単位: 百万ルワンダフラン, ()はシェア: %)

		輸 出		輸 入	
		総 額	11,706	総 額	24,943
主要相手国 (上位5)	アメリカ	(40.0%)		ベルギー	(17.6%)
	西ドイツ	(20.4%)		日本	(13.2%)
	イギリス	(10.1%)		ケニア	(10.7%)
	ベルギー	(6.8%)		西ドイツ	(7.8%)
				フランス	(5.6%)
主要品目別 (上位5)	コーヒー	7,693		消費財	10,069
	茶	1,405		資本財	6,230
	錫	1,324		石油	4,816
	タングステン	184		中間財	3,828

貿易額の推移 (単位: 百万ドル)

	1982年	1983年	1984年	1985年
輸 出	93	79	83	141
輸 入	276	269	295	368

(出所: 「最新世界各国要覧」, 4訂版, 東京書籍)

(2) 国際収支

国際収支 (1983年) 暫定値 (単位: 百万ルワンダ フラン)	貿易収支	-6,940
	貿易外収支	-8,765
	移転収支	11,115
	資本収支	2,883
	遺漏	-74
	総合収支	-1,781

(出所: 「アフリカ便覧」外務省中近東アフリカ局編, 1986年度版)

我が国との関係

5. 我が国との関係

5-1 政治,外交

我が国とルワンダの関係は、1962年の同国独立以来良好に推移しており、ハビヤリマナ大統領はきわめて親日的である。我が国は、自助努力に努める同国に対し、無償資金協力、技術協力を中心に経済協力を実施している。特に、バスが唯一の公共輸送機関となっている同国に対して贈与した数百台のバスは、日の丸とルワンダ国旗を付けて同国中を走っており、我が国は同国民にとって日常的に親しみの深い存在となっている。また、1986年度以来、青年海外協力隊員が派遣されており、現在6名の隊員が活躍中である。さらに、元世銀副総裁の服部正也氏(現、在京ルワンダ名誉総領事)は、1965年から71年度まで、同国中央銀行総裁として、同国の経済・財政建直しに貢献し、高い評価を受けた。

1987年は、日・ルワンダ国交開設25周年にあたり、3月21日から26日、我が国政府の招待により、ルワンダの大統領としては初めてハビヤリマナ大統領が訪日した。

公館設置状況

我が方公館	在ザイール大使館兼轄
先方公館	大使館(1979年5月17日開設)

5-2 経済,貿易

日本との貿易[品種別](1985年) (単位:千ドル)

日本からの輸出品目	金額	日本への輸入品目	金額
自動車	8,119	金属鉱	1,183
鉄鋼板	6,744	象牙等	383
自転車	1,215	コーヒー	206
二次電池	929	特殊取扱品	6
オートバイ	762		

日本との貿易額の推移 (単位:百万ドル)

	1983年	1984年	1985年	1986年
日本から輸出	21.86	18.47	22.94	24.97
日本への輸入	1.61	1.88	1.78	1.80

(出所:「最新世界各国要覧」4訂版,東京書籍)

5-3 経済,技術協力

(1) ODAの現状

- ① DAC諸国は,1986年支出純額で1億2,367万ドルの二国間ODAを供与しており,贈与がこのうちの89.7%を占め,主要援助国は,ベルギー(シェア19.9%),米国(同17.0%),フランス(同16.2%),西独(15.6%),等である。我が国は,926万ドルを供与し,シェア7.5%で第6位の援助国である。

また,国際機関は,86年支出純額で8,089万ドルのODAを供与しており,貸付けがこのうちの58.3%を占め,主要援助機関は,IDA,EDF, AfDF等である。

- ② 我が国は,有償資金協力,無償資金協力,及び技術協力の各形態により援助を実施している。

有償資金協力については,1974年度及び79年度に,計16億円を「輸送力増強計画」に対し供与したが,これ以降の供与実績はない。

無償資金協力については,食糧・農業,運輸・交通,保健・医療,水供給等の基礎生活分野,インフラに対する供与のほか,債務救済を実施している。

また,技術協力については,研修員受入,専門家派遣,開発調査等により,通信・放送,運輸・交通,工業,社会インフラ等の分野において協力をを行っているほか,1986年度からは新たに青年海外協力隊を派遣したところである。

我が国との関係

(2) ODA実績

① 我が国のODA実績

(支出総額, 単位: 百万ドル, ()内は%)

暦年	贈 与			政府貸付	合 計
	無償資金協力	技術協力	計		
1983年	5.60 (1.1)	0.25 (0.1)	5.85 (0.6)	- (-)	5.85 (0.2)
1984年	2.20 (0.4)	0.87 (0.2)	3.07 (0.3)	- (-)	3.07 (0.1)
1985年	1.25 (0.2)	0.47 (0.1)	1.72 (0.1)	-0.08 (-)	1.64 (0.1)
1986年	8.24 (1.0)	1.34 (0.2)	9.53 (0.6)	-0.32 (-)	9.26 (0.2)
1987年	7.13 (0.6)	0.82 (0.1)	7.95 (0.4)	-0.37 (-)	7.58 (0.1)

注: ()内は我が国二国間ODA各形態総計に占める割合。

② 年度別・形態別実績

(単位: 億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
82年度までの累計	15.87億円 輸送力増強計画 (74年度: 11.07) 輸送力増強計画 (79年度: 4.80)	52.45億円 (内訳は注3)	2.19億円 研修員受入れ 17人 専門家派遣 12人 調査団派遣 20人 機材供与 10.7百万円 開発調査 1件
83年度	なし	5.86億円 医療施設整備計画 (4.00) 食糧増産援助 (1.50) 債務救済 (0.36)	0.50億円 研修員受入れ 4人 専門家派遣 1人 調査団派遣 3人 機材供与 0.3百万円 開発調査 1件
84年度	なし	9.36億円 国際整備計画 (5.00) 食糧増産援助 (2.00) 債務救済 (0.36) 食糧援助 (2.00)	2.24億円 研修員受入れ 8人 専門家派遣 1人 調査団派遣 15人 機材供与 3.6百万円 開発調査 1件

我が国との関係

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
85年度	なし	13.40億円 食糧援助 (3.00) 食糧増産援助 (3.00) 債務救済 (0.90) 公共輸送力増強計画 (6.50)	2.10億円 研修員受入れ 11人 専門家派遣 2人 調査団派遣 9人 機材供与 5.1百万円 開発調査 1件
86年度	なし	11.41億円 東部生活用水開発計画 (4.00) 食糧増産援助 (3.00) 債務救済 (0.88) 国道整備計画 (3.53)	1.20億円 研修員受入れ 8人 調査団派遣 4人 協力隊派遣 5人 機材供与 1.6百万円
87年度	なし	13.64億円 東部生活用水開発計画 (1.78) 公共輸送力増強計画(Ⅲ) (8.00) 債務救済 (0.86) 食糧増産援助 (3.00)	1.28億円 研修員受入れ 9人 協力隊派遣 6人 機材供与 10.7百万円
87年度までの累計	15.87億円	106.12億円	9.51億円 研修員受入れ 57人 専門家派遣 16人 調査団派遣 51人 協力隊派遣 11人 機材供与 32.0百万円 開発調査 1件

- 注：1. 「年度」の区分は、有償資金協力は交換公文締結日に、無償資金協力および技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、有償資金協力及び無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

(出所：「我が国の政府開発援助」1988年、外務省経済協力局編)

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

ルワンダ人の食糧は、バナナ、ジャガイモ、さつまいも、いんげん豆、キャッサバ、とうもろこしなどで、政府は1987年に食糧自給を達成したと公表している。米も中国人指導によるジャボニカ種が市場に出ているが日本米より粘りが少ない。調味料は砂糖以外は輸入物である。

野菜、肉、魚(淡水魚)は市場に豊かに出回っているが、ハム、ソーセージなどの加工品はヨーロッパからの輸入であるため高価である。

(2) 主な食品の出回り状況

米は中央市場やほかの食品店で入手できるが、丸いジャボニカ種でもボロボロするので圧力がまだたくほうがよいし、チャーハンなどには最適である。細長い外米はいつでも入手できる。1kgで170円くらいである。

パン屋はキガリ市内に2軒(アテネ、ア Rilwanga)あり、ここから各食品店やキオスクに卸される。アテネに買いに行けば、温かいパンが入手できる。食パンは1斤90円である。

スパゲッティは現地産は1袋200円であるが、粉っぽくおいしくない。ヨーロッパ、ケニアからの輸入品は1袋500円以上と倍の価格である。

肉類は牛、豚、鶏など安価で豊富にある。牛ヒレで1kg800円程度。ただし、ハム、ソーセージなどの加工品は、安全度と味の点から輸入品が無難であるが、価格は1kg2,000円と大変高い。

野菜類は中央市場や共同組合販売店で安価に入手できる。サラダ菜、レタス、セロリ、なす、キャベツ、かぶ、トマト、カリフラワー、きゅうり、玉ねぎ、グリーンピース、いんげん、ピーマン、にんじん、しょうが、ニンニク、ズッキーニ、西洋ねぎ、ジャガイモ、さつまいもなどが入手可能であるが、大根、白菜、ごぼうなどは入手不可能。ただし、たねを持参すれば、大根などは自宅の庭で3ヵ月くらいで栽培でき、食用となる。

果物類ではバナナ、パパイヤ、アボガド、パイナップルが安価に入手できる。オレンジ、ぶどう、りんごなどはヨーロッパからの輸入で高価である。

乳製品では牛乳は少し味が濃いだが、チーズは現地産が大変おいしい。バターはケニアからの輸入品で1箱700円。卵は1個35円と高いが、卵黄が鮮やかな黄色でおいしい。

食用油はコーンオイルが現地産で入手できる。ジャムは現地産もあるが輸入品との価格差はあまりない。

現地産ビールはプリムス、ミューツイグの二種類があり、1本200円くらいと安価である。現地産のパナナワインやバナナリカーもあるが、フランスワインやスコッチウイスキーも豊富に出回っている。ただし、輸入酒類は高価である。フランスワイン1本1,500円、ジョニ赤1本4,000円などである。

ビスケットなどは現地産で1箱200円、輸入品で1箱600円である。

調味料はステーキソース、タバスコ、マヨネーズなど輸入品で大変高価。タバスコは1本800円。日本の調味料はまったく入手が不可能なため、みそ、しょう油、味の素、すしの子などは日本から持参するほうがよい。

(3) 食料の入手

日本食品は入手できない。パリの大丸に依頼するか、日本から持参するほうがよい。以前はケニアのナイロビからしょう油などを購入する方法があったが、1988年からケニアは食品輸入禁止となったため、日本食品もなくなっている。

キガリでの食品の入手はアリルワンダ (Alirwanda)、アテネ (Athène)、アルク (ALC)、中央市場、T2000などの店でできるし、その他にも各地にキオスクがある。

また、野菜や果物などは、ルワンダ人がカゴを頭にのせて行商にくるので、値段を交渉して買うこともできる。

1-2 調理, 食器具等

(1) 調理, 食器具等の入手

冷蔵庫, フリーザー, 圧力がま, ミキサー, 包丁, なべ, フライパン, 皿, コップ, 紅茶カップ, フォーク, ナイフ, スプーンなど, 洋式食器は高価ではあるが, 入手が可能である。

(2) 日本から持参したほうがよい調理, 食器具等

電気がま, トースター, まな板, 包丁, 日本茶碗, お椀, 急須, 湯呑み, ようじ, はし, 調味料容器, 電子レンジなど。電圧は220V, 50Hzで, コンセントはフランス式の2本丸ピンタイプである。

食生活

1-3 外 食

(1) 飲食店

表 主な飲食店

店 名	料 理 等
Taverne	フランス料理 - ピアノ演奏あり
Chez Vaya	ギリシャ料理 - 夜景がすばらしい
Chez Lando	フランス料理
Petit Kigari	イタリー料理 - ピッツァが美味
Ninos	フランス料理 - 日本式オムライスあり
La Sierra	インド料理 - 前注文で中華料理も可能だが高価
Chez David	フランス料理
Tam Tam	オムレツ, ピッツァなどの軽食店
Impala	ローストチキンなどの軽食店

(2) その他の飲食店

ホテル内レストランとしては下記のホテルで、いずれもフランス料理をサービスする。

Hotel Meridien (メリディアン)

Hotel Mille Collines (ミルコリーヌ)

Hotel Diplomates (ディプロマット)

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

赤道直下とはいえ、1,500mの高地にあるキガリでは、朝晩はかなり涼しくなり、セーターやジャンパーが必要となる。アフリカ人は寒さに弱く、オーバーを着ている人もいるが、日本人はジャンパー程度で十分である。コートを着用するチャンスはほとんどない。ベルギーから中古衣料が無償で供与されるため、ルワンダ人はよい服装をしている。

フランス直輸入のアラモードも入手可能であるが、大変高価である。中国製衣料が比較的安価で入手できるが、デザインや品質には期待することはできない。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

衣料はすべて日本から持参したほうがよい。上着、下着類、履物類など、すべて夏物が必要である。礼装用としても、紳士は背広、婦人はちょっとしたドレスで十分である。子供用、乳幼児用とも下着類、履物類などはサイズを考えて多く持参したほうがよい。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

毛布やシャツは現地で入手できる。ゴム長靴やスポーツシューズも入手できる。

(4) その他の留意すべき事項

ルワンダはマウンテンゴリラが有名で、おそらく1度は見に行くことと思われるが、現場は2,000mをこえる高地なので、ジャンパーや雨季用のビニールレインコートを用意して行ったほうがよい。

2-2 札 装

(1) パーティー

紳士は背広にネクタイ、婦人はスーツまたは、ロングドレスで十分である。

(2) 式 典

上記と同じでよい。

(3) その他の冠婚葬祭

上記と同じでよい。

衣 料

(4) その他の留意すべき事項

紳士用, 婦人用とも白系, 黒系の2種類を持参すれば, ほとんどの場合に対応できる。

2-3 洗濯, 仕立て, 修繕, 保管

(1) 洗 濯

ドライクリーニングもできるクリーニング店(Lavenet)があり, 仕上りも大変よい。電気洗濯機やアイロンは日本から持参するほうがよい。電圧は220V, 50Hzである。洗濯物にはかならずアイロンをかけたほうがよい。洗濯物の中に蜂や蠅が入り, 着用時に刺されることを防ぐうえからも必要である。

(2) 仕立て, 修繕

紳士服, 婦人服のテイラー, 仕立て店, 修繕店はあるが, 技術の点からは推奨できない。しかしながら, 非常の場合には利用も可能である。

(3) 保 管

比較的乾燥しているが, 大雨期(3月~6月)小雨期(10月~11月)には, ときおりチェックするなどの注意が必要である。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

キガリ市内で安心して利用できるホテルは5軒ある。治安は比較的良好、キガリ市内では夜間の女性の1人歩きも可能である。

住宅物件は最近、新開地に新築家屋が続々と建っているので借り手市場といえるが、便利な旧市街では物件が限られているので、タイミングがあわないとなかなか入手できない。旧市街で4LDK独立家屋の月額家賃は15万円強くらいである。一般的にアパート、マンション類はほとんどなく、独立家屋である。

(2) ホテル事情

表・日本人がよく利用するホテル

名 前	料 金	TEL
Hotel Meridien	シングル1泊 約10,000円	82176
Hotel Mille Collines	シングル1泊 約11,000円	76530
Hotel Diplomates	シングル1泊 約9,000円	75111

いずれのホテルも赴任当初利用できるし、長期滞在も可能である。ミルコリーヌとディプロマツトは市内にあるが、メリディアンは別の丘にあるので、交通は少し不便である。

1989年1月からホテル代の支払いは、原則として外貨払い(ドル、マルク、フラン等)となった。

(3) 住宅の探し方

斡旋業者は1社ある(Agence Andrews TEL: 72355, 住所: B.P. 391, Kigali)。この業者を利用しても手数料は家主側が支払うので、借り手は一切払う必要はない。またほかに、スーパーの入口や郵便局に貼紙で広告する方法があるが、新聞広告はない。知人の紹介でたくさんの物件を見る方法がよい。

キガリは住宅建設ブームで物件はかなりあるので、自分の好みにあったものを根気よく探す必要がある。

住 宅

(4) 住宅選定上の留意点

キガリの従来の市街地住宅地域であるキヨブ (Kiyovu) には、空家が極端に少なく、向い側の丘キミフルラ (Kimihurura) や、そのまた向う側のカチル (Kacyiru) へ住宅街が広がっている。したがって、環境、利便性、防犯などの点からはキヨブが最良であるが、希望条件によっては、キミフルラやカチルに求めざるを得ないこともある。

設備についてはルワンダの場合、家具なしの場合が多い。しかし、家具が大変高価なので、大家と交渉し、家賃を上の上のせしてでも家具付きとさせたほうが、2~3年しか居住しない我々にとっては有利である。ちなみにルワンダにはレンタルの家具はない。

外国人向けの貸家は給排水、給電は完備している。ガスはプロパンのみ。電話事情は最近改善されているが、人脈(電話局に協力隊員が勤務している)を通じて依頼すると、早く取りつけられる。

防犯については、居住地域によって危険度がことなる。しかし、昼夜を問わずチャンスがうかがっている泥棒が多いので、門や扉の堅牢さや、錠、垣根、への頑強さに十分注意を払う必要がある。また、窓にはかならず網戸のあることを確認する。ない場合はかならずつけさせること。マラリア蚊を家の中へ入れない配慮が大切である。

(5) 住宅の契約

契約期間は通常2年間で、家賃支払いは月払い、3ヵ月払い、6ヵ月払い、1年払いなどがあるが、これは家主との話し合いで決められる。前払金はない。家賃は家具なし2LDKアパート(数が少ない)で10万円くらい。4LDKの一戸建てで14万円くらいからとなる。

家具は通例ついていない。家主との交渉で、カーテンや、その他の大型家具(ベット、ソファセット、食卓セット、じゅうたん等)を入れさせるほうが借り手としては有利である。

借用してからの補修は借り手負担となるので、借用時に補修部分があれば、はっきり家主負担として指摘しておいたほうがよい。

(6) 居住上必要な事項

住宅にかかる税金、保険は家主負担であるが、家具保険は借り手負担である。また、電気、水道、電話、ガス等も借り手負担となる。電話局および電気・ガス公社への家主と同行し、名義の書換えをする必要がある。電気・ガス公社での名義の書換え手数料は約25,000円、電話局では約5,000円である。家主によっては、自分宛ての毎月の請求書を借り手に支払わせる人もいる。

ゴミ処理は各家が庭の中に処理穴を掘って埋めるか、焼却する。し
尿処理は各家ごとの沈澱による地下浸透方式である。

(7) その他

防犯対策について、家主に十分確認すること。

医 療

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

ルワンダへの入国に必要な予防接種は黄熱病であるが、コレラもしておいたほうがよい。さらに、破傷風と狂犬病も接種していくことが望ましい。

新生児、乳幼児への各種接種は、ベルギー大使館医務室にて有料で接種可能であるが、念のため、消毒綿、注射器、注射針は多めに持参したほうがよい。

(2) その他赴任前に準備すべき事項

家庭常備薬、常用薬、消毒液、注射器と針、体温計、ピンセット等を持参のこと。眼鏡、コンタクトレンズは予備を携行すること。歯科治療は完全に治してから出発したほうがよい。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

首都キガリに国立キガリ中央病院がある。内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻科等があり、ルワンダ人、ベルギー人、フランス人の医師による診療が行なわれている。しかし、大変混雑しているし、日本人にとっては言葉の問題(フランス語)や、医療レベルの問題から十分納得のいく治療が受けられるとはいいがたい。

現在、個人開業医は存在しないが、厚生省は近い将来、開業医を許可する方向で検討中である。

また、ベルギー大使館医務室で、2人のベルギー人女医が月～土の午前8:30～11:00の間、交代で診療にあたっている。また、ベルギー人看護婦もいて、注射薬を持参すれば注射を受けることができる。

1988年5月からキガリ中央病院に看護婦の協力隊員が勤務を開始し、1989年2月現在、看護婦2人、検査技師1人となっている。キガリ中央病院入院病棟は1等、2等、3等とあり、日本人の入院する1等は、2人部屋を1人使用で1日3,500円である。

歯科についてはベルギー人開業医が1軒あり、予約制で診療可能である。

(2) 緊急時の対応と措置

JICA協力隊事務所は、キガリ中央病院長と顧問医契約を締結し、緊急時に対応する体制を整えているが、医療水準一般が低いため、かならずしも十分な対応が行なわれる保証はない。必要な場合は、フランス、

または、ケニアへ、フライングドクター制度により移送することが必要である。

4-3 医薬品等

(1) 携行が望ましい医薬品

頭痛薬、腹痛薬、下痢止薬、歯痛止薬、風邪薬、軟膏、湿布剤、抗生物質、目薬等。

(2) 任国で調達できる医薬品

風邪薬、胃腸薬、マラリアの薬、痛み止薬、バンドエイドなどは、入手可能。抗生物質は入手できない。

(3) 任国で調達できる衛生用品

入手可能であるが、品質やサイズの点から、生理用品、包帯、ガーゼなどは日本から持参したほうがよい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意事項

薬によっては、医師の処方箋でのみ購入が可能のものがある。購入可能な薬品は、フランス製、ベルギー製がほとんどであるため、効能、副作用、アレルギーなどについて注意する必要がある。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

ヨーロッパ人、アメリカ人とも分娩は自国へもどっている。航空機に乗れる月数のうちに、日本へ帰国することが望ましい。任国での出産は、早産児出産、流産、中絶への対応、技術レベル、医療への認識の相違などから勧められない。

(2) 出産後の対応

母子検診と予防接種についてはベルギー大使館医務室で対応してくれる。

(3) 育 児

哺乳ビン、チクビ、粉ミルクは入手できるが、衣類、ベビー石けん、紙オムツは日本から持参したほうがよい。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

エイズのあるルワンダでの手術は、避けたほうがよい。医師がベルギー人、フランス人の場合でも介添えの看護婦はルワンダ人であるため、日本の感覚での衛生水準は望み得ない。

医 療

(2) 手術設備の状況

キガリ中央病院, プタレ大学病院, ルヘンゲリ病院の3院にはかなりの設備が整っているが, 上記の理由から手術を受けないほうがよい。

(3) その他手術入院時の留意事項

輸血はエイズの危険があるし, 食事は持ちこまなければならないなど, 手術環境が劣悪なため, 手術を受けないほうがよい。

4-6 任国でよく罹る傷病

(1) 一般の疾病

キガリは1,500mの高地にあるため, 朝晩冷え込むので風邪にかかりやすい。下痢症もひんぱんに罹る病気である。正露丸がよく効く。

(2) 風土病, 伝染病

クロロキン耐性マラリアがあるので, かならずクロロキン系の薬と, クロルプログアニル系の薬の両方を予防薬として服用する必要がある。また, マラリア蚊は夜10時から朝6時まで活発となるので, この間に蚊に刺されない工夫をすることが大切である。

エイズ対策としては, 血液接触に十分注意することが大切であり, かつ性的接触を厳に慎むことが予防となる。

コレラ, 赤痢, 肝炎の予防としてはなま水避け, なま物を食べないなどの注意をすること。

破傷風, 狂犬病については, かならず必要な回数の予防接種をすることが必要である。

(3) 有害動物, 病害虫

蚊, 蠅, 毒蛇, 毒ぐも, 毒蛾, プヨ, ムカデなどがいる。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

水道水を直接飲むことは不可能。かならず煮沸して飲むこと。氷を作る水も煮沸水を使用する必要がある。

(2) 濾過器の入手法

インド製のものが入手できる。

(3) その他保健衛生に留意すべき事項

日常生活に十分留意し, 必要な予防薬はかならず服用するなど, 病気に罹らないように自分自身でしっかり注意することが大切である。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

ルワンダの教育制度は小学校8年, 中学校6年, 大学3年~6年である。現在, 小学生60万人, 中学生4万人, 大学生8千人である。レベルは全体に低い。

(2) 日本人学校

日本人学校, 補習校ともにない。

(3) 現地校, 外国人学校

現地校はルワンダ語(キニャルワンダ語)主体の授業となるため, 日本人はベルギー学校または, フランス学校へ入学することになる。しかし, これも, いずれもフランス語の授業であり, ある程度フランス語ができることが条件となる。

(4) 幼稚園

上記のベルギー学校とフランス学校に附属幼稚園があるが, いずれもフランス語による保育である。

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) 日本人学校

なし。

(2) 現地校, 外国人学校

A. ベルギー学校(Ecole belge)

幼稚園 3年
小学校 6年 (6才~12才)
中学校 6年 (12才~18才)

学期は毎年9月1日から翌年6月30日まで。1年は3学期から成り, 1学期当りの学費は次のとおり(ベルギー人, ルワンダ人以外に適用の額)。

幼稚園 約13万円 (77,000ルワンダフラン)
小学校 約13.6万円~15.3万円 (80,000~90,000ルワンダフラン)
中学校 約13.6万円~15.3万円 (80,000~90,000ルワンダフラン)

現在生徒数約480人, 教師50人で, フランス語のできない外国人(ドイツ人, アメリカ人, カナダ人)も受け入れるが, 本人が家庭教師につく

教 育

などして努力しないとついていけない。日本人ももちろん受け入れ可能である。

B. フランス学校(Ecole française)

幼稚園 2年
小学校 6年 (6才~12才)
中学校 3年 (13才~15才)

学期等は上記Aと同じ。

学費は中学校が1学期約58,000円(34,000ルワンダフラン)。

現在生徒数200人で教師20人である。

C. アメリカンスクール

1989年1月現在アメリカ大使館とアメリカンクラブとの間でアメリカンスクール設立の動きがあり、1989年9月にとりあえず小学校のみ開設の見通し。学費等未定。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

キガリに公営図書館はない。フランス文化センターにフランス語図書館があり、誰でも利用できる。

(2) スポーツ施設

利用可能な施設は、ホテル附属のテニスコート2カ所、プール2カ所。ほかに、ベルギークラブのテニスコート、プール、ゴルフコース(4ホール、9コース)と、アメリカンクラブにプールがある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

フランス語の教師としては、フランス人、ベルギー人、ザイール人、ルワンダ人などで捜すことができるが、謝金が大変高い。最低1時間1,000円くらいから。

(2) 通信教育

ルワンダ国内ではない。日本の海外子女教育振興財団からの通信教育をうける必要がある。

(3) 携行すべき家庭用学習教材

必要な教材はすべて日本から携行する必要がある。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

外国人は通例、コック、ハウスポーイ、庭師、夜警等を雇う。紹介会社もあるが、知人の紹介によるもののほうが信用がおけるし、問題の起こった時に容易に解決できる。最低賃金は政府によって業種別に定められている。

6-2 運転手

(1) 雇用

知人の紹介または、紹介会社あるいは、スーパーや郵便局への貼り紙広告によって雇うことができる。選考は面接と実技によって、良し悪しを判断する。契約書には月給、支払い方法、勤務時間、休日・休暇、ボーナス、昇給、超過勤務手当、禁止事項、解雇条件、退職金、試用期間等を明記する。試用期間は通例3か月である。

(2) 日常管理

出退勤は出勤簿にサインさせることで管理する。洗車、保守点検を毎朝義務づけること。燃料と走行の管理は毎日雇用主がチェックする必要がある。チャンスがあれば、運転手は車を利用してタクシーの営業をすることがある。

(3) 教育指導

ルワンダ人の運転マナーは極端に悪い。スピードの出し過ぎ、無理な追越し、ウインカーと逆方向への曲がり、公道上での停車とおしゃべり等、枚挙にいとまがない。ひとつずつきちんと教える以外に方法はない。しかも、くり返して教える必要がある。

(4) その他の留意事項

借金の申込みがあった時は、必ず給料の前払いとして処理すること。

6-3 メイド/サーバント

(1) 仕事の人数と種類

男のサーバントが多いが、女のメイドも捜せばいる。若い人を雇って、色々と教え込むほうがよい。1人に料理、掃除、洗濯をやらせれば十分である。もし、小さい子供のいる場合は、子守りと洗濯にメイドを別に雇用したほうがよい。

家庭の使用人

(2) 雇 用

知人の紹介や、スーパーや郵便局での貼紙で探す。選考は面接と書類審査で行い、必要なら実際にやらせてみる。契約書の内容は上記と同じ。

(3) 日常管理

上記と同じ。

6-4 庭師/ガードマン等の雇用

(1) 雇 用

上記と同じ。

(2) 日常管理

上記と同じ。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

バス、タクシー、オートバイ・タクシーの利用が主な交通手段となるが、自家用車を入手するほうがよい。道路状況は比較的よく、各方向への国境まで、ほとんど舗装されている。

国内航空もキガリから北西のザイール国境のギセニ (Gisenyi) と、南西のザイール国境のチャンググ (Cyangugu) にルワンダ航空が飛んでいる。

鉄道はない。長距離バスは日本が供与した大型バスで、横に日本とルワンダの旗、それに Cooperation Rwanda-Japon と書かれている。また、タクシーと称するマイクロバスがキガリ市内および長距離を走っている。ただし、無謀運転による事故が多い。1988年8月からそれまで3~4台しかなかった乗用車型のタクシーが導入され、現在40台くらいが市内を走っている。空港、市内間で3,500円くらい、市内で1,000円くらいであるが、すべて乗車前に料金を交渉する必要がある。

オートバイの後部座席に1人か2人を乗せて走るオートバイ・タクシーもあるが、安全度からいってあまり勧められない。それに、外国人と見ると、市内でも1,500円などと不当にふきかけてくるので、うまく交渉する必要がある。

(2) 自家用車を利用する場合

左ハンドルの右側通行であることに十分注意する必要がある。運転席にいる時は常に、自分がセンターライン寄りと考えていれば、逆方向に入ることは避けられる。ルワンダ人は交通教育を受けておらず、自分勝手に横断や信号無視をするので、常に注意して運転すること。

(3) レンタカー等を利用する場合

比較的程度のよい車が多いが、ガソリン負担が自分か業者かの確認、保険に入ることなどに注意すること。ホテル内のレンタカー会社で入手できるが、料金はかなり高い。走行距離によるものと、定額で1日100Kmまで無料との二方法がある。カローラで1日1万円~1.5万円かかる。

(4) 道路マップ

街に1軒ある本屋カリタス (Caritas) やホテルで入手できるが、ホテルは割高である。

交通事情

7-2 交通事故

(1) 対処方法

発生したら街の交通警察 (Gendarmerie routière) に連絡して、現場検証 (Constatation) をしてもらい、あとは相手の車と、保険の扱いについて話しあう。

(2) 救急病院

負傷者がある場合は、上記交通警察を通じるか、直接キガリ中央病院に連絡して救急車の出勤を依頼する。

キガリ中央病院 (CHK) TEL: 75555

(3) 盗 難

自動車被盗まれた時は、上記交通警察に連絡する。部品や工具は盗まれたらあきらめるしかない。届け出ても何もしてくれない(何もできない)。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

キガリ市内は、特に、一方通行が多いので、注意すること。ときおり白バイが巡回しており、筆者も駐車違反で3,500円罰金を払わされたことがある。外国人と見ると違反キップを切るので注意。ルワンダ人は払えないから切らない。ロータリー (ロンボワン) は右からくる車が優先である。自分がロータリーの中に入っている場合でも右からの車があれば、譲ること。ケニア等ではロータリーに入った車に優先権があるので、この点でことなる。

(2) 対処方法

不幸にして交通違反として取締られた場合は、罰金を支払うこと。ソデの下は通用しない。

7-4 車の修理

(1) 部 品

トヨタ、ベンツ、プジョーなどの部品はほぼ入手できるが、持ち込む車の部品は、日本から持っていったほうがよい。

(2) 修理工場

筆者のカローラは、購入した代理店工場へ2万キロ点検に出したとたんに、具合が悪くなり、結局、協力隊員に修理してもらった。技術レベルは信用できない。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

1988年8月に日本供与の電話交換機が設置されてから大変改善された。キガリ電話局にNEC技術者および協力隊員が勤務している。

(2) 国内電話

ダイヤル式とプッシュホン式ともに使用できる。市街局番はなく、国内はすべて5桁の番号で通話可能。1通話10フラン(17円)だが、空港の公衆電話は20フランで、ホテルからかけると50フラン(85円)徴収される。通話状況は大変よい。

(3) 長距離(国際電話)

ダイヤル即時で日本へ通話できる。1分間1,400円で、夜間割引はない。日本とは7時間の時差があるため、現地時間の朝7時ごろ(日本時間の午後2時)が一番よくかかる。隣国ザイールのキンシャサへは、むしろかかりにくい。

8-2 電 信

(1) テレックス

1988年7月に日本供与のテレックス交換機が設置されたので、回線が1,800回線に増えている。利用数はいまだに500回線である。電話局へ申込みれば設置できる。通信料は1分間1,400円である。

(2) ファクシミリ

器具を日本から持参して設置すれば、通信可能であるが、料金は高い。

(3) 電 報

月～金の午前8時～午後6時、土曜日の午前8時～午後1時に打電可能。ただし、着信は私書箱あてなので、土曜日の午後から日曜日一杯は配達されない。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

キガリ中央郵便局は市内にある。日本からの郵便物は早くて1週間、遅いと2～3週間かかる。しかし、紛失することはまれである。小包は手数料170円を支払って受領する。

通 信

(2) 課 税

電気製品などには課税されるが、日本食品や本に課税されることはない。

9. マスコミ

9-1 新聞

ルワンダの新聞は情報局 (Agence Rwandaise Presse) がルワンダ語で週刊誌と月刊誌を、フランス語で日刊紙ARP (A4ガリ版刷り) を発行している。

(1) 主な日刊紙

ARPと称するフランス語紙は、政府行事が主体でいわゆる社会面記事はない。年間購読で、1年7,000円である。郵送されてくるので1~2日遅れで届く。水曜日版は1週間の記事の総集編である。

(2) 本邦日刊紙

OCS (海外新聞普及株式会社) によりロンドン発行の衛星版が1週間遅れで購読可能。年間3~4万円。

〒108 東京都港区芝浦2丁目9
海外新聞普及株式会社
TEL: 03-453-8311

(3) 欧米紙

ルモンドが本屋かホテルで入手できるが、1~2週遅れである。ルモンドの週刊国際版をバリエに注文すれば、年間8,000円で購読できる。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ARP放送局がFMで朝6時から夜11時頃まで放送しているが、すべてルワンダ語で、日本人には実用にならない。フランス語ニュースは朝・昼・晩に15分ずつのみ。

(2) ラジオジャパン

ガボン中継が大変よく受信できる。午前10時 (21,695KHz)、昼12時 (17,756KHz)、午後6時 (21,700KHz)、夜12時 (11,800KHz) が実用となる。ソニーの小型短波受信機でも、ロッドアンテナで十分である。

(3) 任国で聴取可能な外国放送

BBC、ラジオフランス、ドイチェベレー、モスクワ放送、VOAなどがよく入る。

9-3 テレビ

ルワンダにテレビはない。周辺国の放送も入らない。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-1 映画・演劇

(1) 映画館

キガリに2カ所あり, フランス映画や香港のカンフー映画を上映しているが, フランス語であり, 観客はルワンダ人のみである。入場料400円。また, アメリカンクラブで毎週日曜日の夜7時から, アメリカ映画(英語)を上映している。料金250円。

(2) 劇場

劇場はない。フランス文化センターで年4~5回ドラマを上映するが, すべてフランス語である。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

定期刊行物はキリスト教系の Dialogue が隔月刊で発行されている。書籍は少しずつ刊行されている程度である。

(2) 書店

キガリの書店はカリタス (Caritas) 1軒のみで, その他, スーパーやホテルのキオスクで雑誌や書籍を売っている。日本書はケニアのナイロビにある OCS に依頼して購読できる。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

イギカリ・センター (Centre IGIKARI) がフランス文化センターの語学校としてあるが, 主目的は子供へのフランス語教育で, 成人向けは1学期 (3~4ヵ月) で約7週間 (週に2~3回) と短い。1学期約9,000円。フランス語でフランス語の授業を行う。先生はフランス人, ベルギー人, ルワンダ人, ザイール人, ブルンディ人で, 黒人のほうが多い。

(2) 家庭教師

捜せばいるが, フランス人, ベルギー人は少なく, ルワンダ人, ザイール人, ブルンディ人が主体で, 謝礼は1時間1,000円~2,000円と高い。

10-4 文化活動, 文化施設

(1) 一般事情

年に一回博覧会が開催され, 各種催物が展示される。キガリに博物館, 美術館, 動物園, 水族館はない。

- (2) 日本・ルワンダ友好協会等の有無
この種の協会はない。
- (3) その他の文化活動, 文化施設
フランス文化センターが年に数回, 展示会などを開いている。また,
アメリカ文化センターが英語講座をひらいている。

10-5 写真, ビデオ

- (1) 写 真
フィルムはコダック, フジが入手できるが高い。日本の3倍くらいで
ある。ただし, ときどき品切れとなる。DPE技術はよい。朝10時に出
すと夕方5時にはできている。ただし, サービス版1枚110円と大変高
い。カメラとその小物類は入手できない。日本から持参したほうがよ
い。
- (2) ビデオセット
ビデオ機器は入手できない。故障修理も部品が無いので, 不可能。
ただし, ビデオカセット貸し出し店は複数ある。主にVHSで, フランス
語版のビデオカセットを貸し出している。日本から送ったビデオカ
セットは, 税金なしで引取ることができる。
- (3) ミュージックテープ
市販しているが, 程度はあまりよくない。日本から持参したほうが
よい。

10-6 音楽鑑賞, 演奏, 民族楽器

- (1) 音楽会, コンサート
ない。
- (2) コーラス, 演奏グループ
邦人が参加可能のものはない。ルワンダ人によるアフリカ音楽のみ
である。
- (3) ピアノ等
購入, レンタルともなく, 調律師, ピアノ家庭教師もいない。
- (4) レコード
ない。
- (5) 民族楽器
みやげ物店で購入が可能。ギター, 太鼓等。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

- (6) その他の楽器
ない。

10-7 手芸, 絵画, 美術工芸

- (1) 手 芸
草を使ったカゴなどは市販しているが, 材料は入手不可能。
- (2) 絵画, 美術工芸
専門店はないが, 本屋カリタスで絵具等は入手できる。ときどき, 品切れのこともある。

10-8 趣 味

- (1) 園 芸
木の苗は入手可能だが, 野菜, 花などのたねは入手できない。
- (2) 釣 り
西のキブ湖で釣りが可能であるが, 釣り具店はない。日本から持参したほうがよい。

10-9 娯楽, 遊戯等

- (1) 娯楽, 遊戯, ゲーム
アメリカンクラブでビリヤードができる。
- (2) 芸能興業
ない。

10-10 スポーツ

- (1) ゴルフ
ベルギークラブに4ホール9コースのグリーンがある。また, 1988年4月からメリディアンホテルの裏に9ホール9コースのグリーンがドイツの会社によって造成された(ギガリゴルフクラブ)。いずれもメンバー制で, ベルギークラブは年会費約6万円, ギガリゴルフクラブは入会金, 年会費計約20万円である。ゴルフ用具, ウェア, シューズ, ボールはいずれも入手不可能。日本から持って行かなければならない。
- (2) テニス
メリディアンホテルとディプロマットホテルに付属コートがある。メリディアンはメンバーになる必要があるが, ディプロマットは時間料金で, プレーできる。2時間で350円。

- (3) スイミング
メリディアンホテルとミルコリーヌホテルにプールがある。一日で料金500円程度で泳げる。
西のキブ湖畔北端のギセニ市の浜辺でも泳ぐことができる。
- (4) その他のスポーツ, 用具, ウェア
4,500mの山があるので登山ができるし, キガリ周辺でも丘歩きができる。
- (5) スポーツクラブ等
ベルギークラブに入会すると, テニス, プール, 乗馬, スクウォッシュ, ゴルフができる。会費は年会費3万円である。ただし, テニス, 乗馬, ゴルフについては別料金 (例えばゴルフで約3万円) を払う。
アメリカンクラブに入ると, プールとビリヤードが使えるが, 1988年末現在, アメリカ人以外の入会を制限している。会費は年3,500円である。

10-11 風俗営業

キガリ市内にディスコが2~3軒あるだけである。エイズの存在する国なので, 男女関係は厳に慎まなければならない。

10-12 子供の遊び

外国人はベルギークラブ, アメリカンクラブ, ホテルのプール等で子供を遊ばせている。その他に施設や道具はない。子供用の道具は日本から持参したほうがよい。

その他のサービス

11. その他のサービス

11-1 美容院

ミルコリーヌホテルに1軒と、街に白人の経営する美容院が1軒ある。どちらも予約制で、休日が多い。料金は1万円と高い。

11-2 理髪店

街にインド人経営のものが1軒ある。ヘアカットだけで約2,000円と高い。ほかに、現地人用の露店の店もあり、300円と安い、仕上りと安全度に保証はない。

11-3 日本から持参したほうがよい美容、理髪用品

理髪用のクシ、ハサミ、バリカン、肩かけエプロンを持参したほうがよい。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の注意事項

外国人の国内旅行について特に規制はないが、非常事態に備えて、パスポートか身分証明書を常に携帯すること。ルワンダは国全体の治安については問題はないが、こそ泥はいるので注意したほうがよい。

ブタレに博物館があり、ギセニはキブ湖、ルヘンゲリはマウンテンゴリラの観光基地である。

地方へは大型バスとマイクロバスのサービスがある。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

(1) 主要観光地・保養地

ルワンダの東、タンザニアとの国境地帯がアカゲラ国立公園で、象、ライオン、カバ、キリン、鹿、シマウマ、イボイノシシ、猿、ワニなどが見られる。アカゲラホテルとガビロホテルがある。

ルワンダの北西、ウガンダとザイールの国境地帯が火山国立公園で、マウンテンゴリラの生棲地として有名である。キニギのゲストハウス、ルヘンゲリのホテル、ギセニのホテルなどに泊って、ゴリラ見学ツアーに入ることができる。

ゴリラツアーは1日に4グループ(スーサグループ、9グループ、11グループ、13グループ)があり、各グループ6名で予約制である。9グループのみ、当日、現地申込みで、ほかの3グループは前もってキガリの観光局事務所で予約し、前払金(1988年4月から引上げられて19,000円)を払わなければならない。この19,000円には東部のアカゲラ国立公園入園料も抱き合わせて入っており、アカゲラへ行かなくても払わなければならない。そして、ゴリラ見学当日にキニギの観光局事務所で入園料をさらに、約3,500円払う必要がある。

朝8時30分にキニギを車で出発し、山麓まで入り、そこから歩いてゴリラ生棲地まで入ることになる。13グループは1時間歩けば見ることができるが、9グループ、11グループでは約4~5時間歩かなければならない。

保養地としては、西のキブ湖の北端の街ギセニにメリディアンホテルがある。テニスコート、プールがあるし、キブ湖で泳ぐこともできる。東のアカゲラ国立公園のアカゲラホテルにもプールがある。

12-3 旅 行

(1) 自動車

全国道路網は比較的よい。幹線は西のキブ湖添いの道路がラフである以外、ほとんど舗装されている。ルワンダは四角く小さい国なので、

観 光

一番キガリから遠い南西端の国境の街チャンググ (Changugu) でも、7時間で到着できる。

ガソリンスタンドは主要都市にはすべてある。1ℓ約130円。都市間で夜間に立往生しないように、日没前にならずホテルに着くように計画を立てること。

(2) バス

国内の各都市へはバス公社 (Onatracom) の大型バスが走っている。各地とも大体午前7時発である。一日一便のところと、数便のところと、まちまちである。料金は比較的安い。日本人も利用できるが、乗車中に気づかずに腕時計を盗られた日本人もいるくらいなので、盗難に気をつけること。

(3) 鉄 道

ルワンダに鉄道はない。

(4) 航空機

国内路線はキガリから北西のギセニと南西のチャンググに飛んでいる。キガリ市内のエアルワンダ事務所で、予約やチケットの購入ができる。

12-4 エージェント

ルワンダツアー (Rwanda Tour)、アミルワンダ (Amirwanda)、トランジントラ (Transintra) など数社あるので、適宜選択して利用できる。国際航空券は、外貨でのみ購入可能である。

12-5 ホテル等宿泊施設の手配

直接電話予約できるが、トラブルを避けるためには直接出向いて、予約票をもらうほうが確実である。支払いにはカード (AMEX, DC, VISA, Mastercardなど) を使えるが、ホテルによって使用可能カードがことなるので注意すること。

13. 治安,緊急時の心得

13-1 暴動,クーデター等

(1) 緊急時の連絡

現在ルワンダには,邦人は,JICA-JOCV関係者約20人,民間業者6人のみであり,JICA-JOCV連絡網のみ確立している。緊急時には,やたらに動かず自宅にいて,鎮静化を待つのが賢明である。

13-2 強盗,盗難

(1) 一般的治安状況

強盗などの凶悪犯はめったにいないが,かっぱらい,こそ泥,車上狙いは日常茶飯事である。車のドアを開けられて,工具や品物を盗られたり,郵便局のカウンターに置いたウエストバッグをやられたり,バスの中で気がつかないうちに腕時計をやられた協力隊員は,その見事さに感心している。

(2) 防犯対策

住宅については夜警を雇い,犬を飼い,銃を二重,三重に取り付け,窓には鉄格子をはめるなどの対策が必要であるし,常に注意しているという心構えが大切である。

(3) 被害時の心得

不幸にして被害にあった時は,身の安全を第一に,賊の顔を見ない,有り金を渡すなどの方法で切り抜け,後でただちに警察へ届出ること。

13-3 火災,風水害,地震

(1) 一般的災害発生状況

大雨による水害,がけ崩れがよく起きるが,田舎に多く,都市は大体安全である。地震はない。

(2) 防災対策

特にない。

(3) 被害時の心得

特にない。

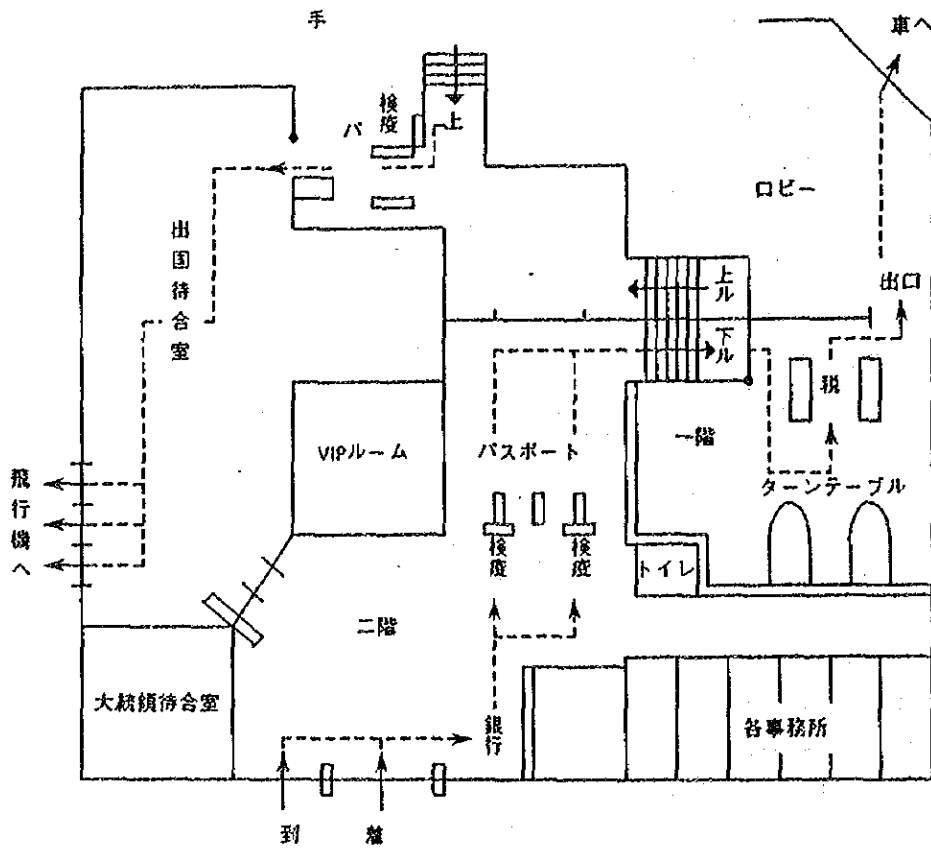
出入国手続きおよび帰国手続き

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

キガリ国際空港内概略図



JICA職員に空港バスのある場合は、銀行のところで出迎えるが、ない場合は税関出口となる。

出入国手続きおよび帰国手続き

(2) 入国手続き書類

入国カード(英語, フランス語で記載してある)にCivil Statusの欄があるので, Marriedまたは, Singleと記載する。キガリの住所は, JICA関係者はJICA-JOCV, B.P. 812, Kigaliでよい。税関申告書や外貨持込み申請書はない。

(3) 入国審査

まず, 検疫カウンターにイエローカードと入国カードを提示し(黄熱病接種をチェックする), 入国カードの裏面にスタンプを受ける。次に, パスポートと入国カードを入国カウンターに提示し, パスポートにスタンプを受ける。有効ビザがあり, 入国カードがきちんと記入してあれば, 特に質問はない。

(4) 税関検査

次に, 1階へ降り, ターンテーブルから荷物を取って, 税関カウンターへ提示する。外交旅券以外の者はすべて開けさせられる。カメラ, ラジオ, ビデオなどを重点的にチェックされる。税関吏の気分が多分に左右される。最悪の場合は, ボンド預けにしておき, 後刻免税書類を作成して引取ることとなる。

(5) 空港内での注意事項

空港地域は一切写真撮影禁止なので, 注意すること。

(6) 空港からのトランスポーターション

JICA職員の出迎えがない場合は, 税関出口にタクシーの客引きがいるので, 行先を告げて利用できる。キガリ市内まで2,000フラン(約3,500円)程度である。

(7) その他の留意点

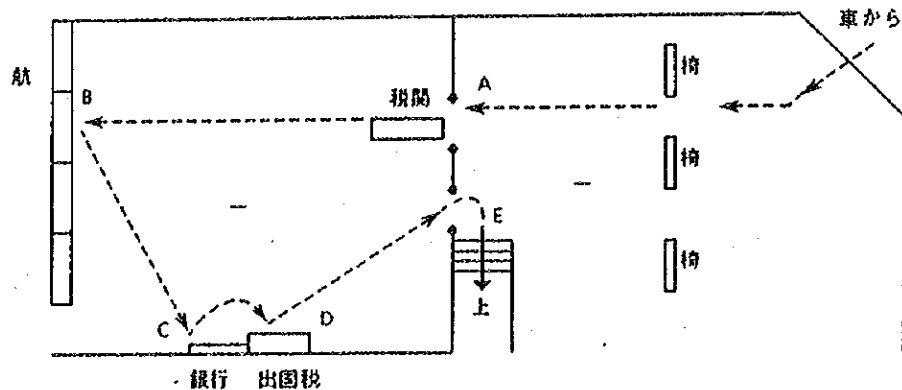
外貨交換は飛行機から空港ビルへ入ったすぐ右側に銀行カウンターがあるので, ある程度交換しておいたほうがよい。

出入国手続きおよび帰国手続き

14-2 出国時

(1) 施設

出国時の概要参照。



(2) 出国手続き上の留意点

空港へ到着したら、まず、預けない機内持込み荷物を椅子のところに置いて、誰かに保管させ、預けるスーツケース等をAの税関の所へ運び、開ける。外交旅券以外の者はすべて開けさせられる。危険物のチェックである。

次にBの航空会社カウンターに行って、チェックインする。ここに出国カードがあるので、記入する。ついで、Cの銀行カウンターへ航空券と搭乗カードを提示し、カード裏面にスタンプを受ける。次に、Dの出国税カウンターで15ドル(米ドルのみ受付ける)払って、レシートをもらう。そしてEの階段から二階へ上がる。この階段の途中にいる警備兵に搭乗カードと、出国税レシートを提示すると出国税レシートを少し破って返してくれる。

次は入国時概要図のとおり、まず、検疫カウンターにイエローカードと搭乗カードを提示し、搭乗カード裏面にスタンプをもらい、次いでパスポートカウンターにパスポート、搭乗カード、出国カードを出すとパスポートと搭乗カードにスタンプを押して返してくれる。そして、手荷物チェックを通り、出国待合室へ入って出発アナウンスを待つ。ルワンダフランや外貨については、一切チェックも制限もない。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

ルワンダビザが有効期間内であれば、問題はない。切れていれば、前もって市内のイミグレーションで延長手続きをしておく。出国時にもイエローカードチェックがあるので、黄熱病接種が切れていないことを確かめる。

(2) 車の処分

知人のルートまたは、貼紙などにより、買い手を捜し、大蔵省で名義書換え手続きをする。

(3) 家財道具の処分

インターフレイト (Interfreight) や、アフリフレイト (Afrifreight) など、なるべく大手の貨物業者に日本への発送を依頼する。頼めば荷造りもやってくれる。ルワンダで売却する場合は、知人のルートまたは、郵便局やスーパーへの貼紙で周知させる。

(4) 住宅の明け渡し

家主へはなるべく早く通知しておく。補修部分などの交渉は契約書にしたがって行う。

(5) 銀行口座の閉鎖

銀行へ小切手を持参し、残高を0として口座を閉めること。もし、未決済の小切手が残っている場合には、必要金額を残し、その小切手が決済された後に口座を閉鎖して欲しいむねの手紙を、銀行に出しておくこと。

私財の輸送,引取り,購入

15. 私財の輸送,引取り,購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者(任国)

Interfreight (Rwanda), B.P. 1068, Kigali
Tel: 76977

すべての貨物の輸出入と,輸送サービス。料金は内容品と量によりことなる。

(2) 輸入手続き

B/Lオリジナルとインボイス,パッキングリスト(フランス語)を添付し,JICA-JOCV事務所名で税関へ免税申請を出し,認可書類を上記(1)の輸送業者に渡して引取らせる。早くて2週間,遅くて4~6週間かかる。フランス語のパッキングリストを作成の際,ルワンダの倉庫公社マジェルワ(Magerwa)は内容品の価格と輸送料の合計額にパーセンテージをかけて,倉庫料として徴収する事を考慮に入れる。たとえば,衣類など使用済のものは「価格なし」と記載するほうが有利である。

15-2 自動車

(1) 一般状況

日本から輸送した場合6ヵ月かかる。早く入手したい場合は,ルワンダにあるものを免税購入するほうがよいが,車種が限られる。

(2) 輸入手続き

新車であれ中古であれ,上記と同様に輸入できる。ただし,登録については外務省から証明をもらい,大蔵省へ提出してITナンバー(臨時輸入登録)を取得することになる。日本から送った場合,工具やサイドミラーの紛失がよく起きるし,ところどころ傷ついていたりする。

(3) 任国での購入

ディーラーから買う場合,税関から免税購入の認可書類を入手し,ディーラーに渡して手続きをさせる。支払いは外貨でなければならない。部品のある一般的な車を購入することが勸要である。

(4) 自動車登録

外務省からITナンバー(臨時輸入登録)証明書を入手し,大蔵省に提出してナンバーをもらう。ナンバー使用料約1,400円は,毎年3月頃支払う必要がある。車検はない。

(5) 免許取得

日本から持参した国際免許証の写しを法務省の法務官(Notaire)へ提示して,原本証明のスタンプをもらう。この際,外務省発行の技術協力者の証明書を提示すれば,無料となる。この写しを交通警察に持参して免許を申請するが,これは口頭申告で,この際,父母の氏名も聞かれる。そして,約3ヵ月後に免許証を取りに行き,500フラン(約850円)払って入手する。ルワンダ免許証は終身有効である。

(6) 保険,税金

保険公社(SONARWA),保険会社(SORAS)の2社のみ。サービスの点からはSORASのほうがよい。第三者保険から全損まで色々の種類があるが,保険料は高い。

社 交

16. 社 交

16-1 風俗習慣

都市の人は日曜日に教会へ通うキリスト教徒が大部分であるが、田舎の人は裸足の生活である。

16-2 パーティーでの留意点

年に1度くらいしかない。特に、留意することはない。

16-3 来客時の留意点

まれに回教徒がいるので、食物に注意する必要がある。

16-4 訪問時の留意点

かならず、アポイントを取って出かけること。

16-5 禁止されている言動

黒人を低く見るような発言は、厳に慎まなければならない。

17. 任国公官庁

17-1 執務時間

月～金 7:00～12:00, 14:00～17:00
土 7:00～11:00 (勤労奉仕のみで執務はない。)

17-2 機関名

ルワンダ国行政機関 (1989年1月15日改組)

	機 関 名	所 在 地	備 考
(1)	大統領府 (Présidence de la République)	B.P. 15 KIGALI	大統領府付大臣 (Ministre à la Présidence de la République) がいる。
(2)	国防省 (Ministère de la Défense Nationale)	B.P. 23 KIGALI	大臣は大統領が兼務。
(3)	財務省 (Ministère des Finances)	B.P. 158 KIGALI	
(4)	商務・消費省 (Ministère du Commerce et de la Consommation)	B.P. 158 KIGALI	今回の改訂で財務省から分離して独立した。
(5)	農業省 (Ministère de l'Agriculture, de L'Élevage et des Forêts)	B.P. 621 KIGALI	
(6)	産業省 (Ministère de l'Industrie et de l'Artisanat)	B.P. 73 KIGALI	
(7)	公共事業・エネルギー・水省 (Ministère des Travaux Publics, de l'Énergie et de l'Eau)	B.P. 24 KIGALI	

任国公官庁

	機 関 名	所 在 地	備 考
(8)	厚生省 (Ministère de la Santé)	B.P. 84 KIGALI	
(9)	初等中等教育省 (Ministère de l'Enseignement Primaire et Secondaire)	B.P. 622 KIGALI	
(10)	運輸通信省 (Ministère des Transports et des Communications)	B.P. 720 KIGALI	
(11)	高等教育・科学研究省 (Ministère de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique)	B.P. 624 KIGALI	
(12)	青年・団体活動省 (Ministère de la Jeunesse et du Mouvement Associatif)	B.P. 1044 KIGALI	
(13)	内務・地方開発省 (Ministère de l'Intérieur et du Développement Communal)	B.P. 446 KIGALI	
(14)	労働省 (Ministère de la Fonction Publique et de la Formation Professionnelle)	B.P. 403 KIGALI	
(15)	法務省 (Ministère de la Justice)	B.P. 160 KIGALI	
(16)	調整省 (Ministère des Relations Institutionnelles)	B.P. 790 KIGALI	

任国公官庁

	機 関 名	所 在 地	備 考
(17)	計画省 (Ministère du Plan)	B.P. 46 KIGALI	
(18)	外務・国務協力省 (Ministère des Affaires Etrangères et de la Coopération Internationale)	B.P. 179 KIGALI	

在外日本関係機関等

18. 在外日本関係機関等

機 関	住 所	TEL	執 務 時 間
JICA-JOCV 事務所	B.P. 812, KIGALI	85748 82038	月~金曜 8:00~12:00 14:00~17:00 土 8:00~12:00

地方都市

19. 地方都市
該当なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルであり、JICAの用務による業務渡航者用に作成されていることをあらかじめご理解願います。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

— アジア地域 —

1. 中国
2. フィリピン
3. ブルネイ
4. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、
ジョクジャカルタ、メダン)
5. シンガポール
6. マレーシア
7. タイ
(バンコク、チェンマイ、コンケン)
8. ビルマ
9. バングラデシュ
10. スリランカ
11. ブータン
12. ネパール
13. パキスタン

— 中近東地域 —

1. アラブ首長国連邦(ドバイ)
2. サウディ・アラビア
3. 南イエメン
4. シリア
5. ジョルダン
6. トルコ(アンカラ)
7. エジプト
8. アルジェリア
9. モロッコ

— 大洋州地域 —

1. フィジー
2. パプア・ニューギニア

— アフリカ地域 —

1. マダガスカル
2. モーリシャス
3. エチオピア
4. ケニア
5. ケンヤニア
(グルエスサラーム、ザンジバル)
6. ブルンディ
7. ルワンダ
8. ザール
9. ザンビア
10. ナイジェリア
11. ニジェール
12. トーゴ
13. ガーナ
14. 象牙海岸
15. リベリア
16. ガンビア

— 中南米地域 —

1. ドミニカ共和国
2. メキシコ
3. グアテマラ
4. コスタリカ
5. パナマ
6. ヴェネズエラ
7. コロンビア
8. エクアドル
9. ペルー
10. ボリヴィア
(ラパス、サンタクルス)
11. パラグアイ
(アスンシオン、エンカルナシオン)
12. アルゼンティン
13. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、
ポルトアレグレ、ベレーン)

JICA

LIB